

# 花壇づくりのヒント 12か月

## 3月 ツバキなど庭の花木の剪定

3月になると、各地で「ツバキ展」が開催されます。日本で昔から親しまれているツバキは半日陰でも育つ花木です。花の種類が豊富で色々な楽しみ方ができます。また、剪定してコンパクトに仕立てれば、鉢植えでも十分に育つので、大きめの鉢で寄せ植えの中心に使ったりと、お庭が有る、無いに関わらず楽しめるおすすめの花木です。

### 【バリエーション豊かなツバキの花】



個性的な絞りガラ



楚々とした侘助系



華やかなカーネーションツバキ

### 1. ツバキの基本的な成長

ツバキの品種の多くは3~4月に開花します。剪定の時期は開花後の3月~4月頃が適期です。6月~7月上旬頃、春に伸びた新しい枝の先に翌年の花芽がつくれますので（花芽分化）、新芽が伸び始める前に剪定を行いましょう。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培カレンダー		寒肥	追肥	剪定	新しい枝が伸びる	花芽分化						開花(寒ツバキ)
		●	●	●	●	●						●
			●	●	●	●						●
				●	●							●

### 2. 剪定方法

ツバキは生育旺盛な樹木なので、放っておくと大きく成長して樹形が乱れていきます。強く伸びた枝や重なり合った不要な枝を花後に剪定することでコンパクトに楽しめます。次に紹介する2種類の剪定方法はツバキに限らず活用できます。

#### (1) 刈込み剪定

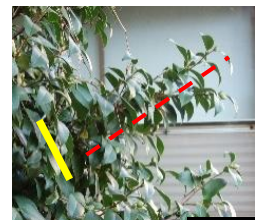
樹形を乱す伸びた枝を刈込み、高さやボリュームを抑えます。

生垣や玉形、円筒形などに樹形を仕立てた花木用の剪定方法です。

- ① 太い枝を刈り込みラインより少し深い（幹に近い）位置で剪定バサミで切り取る。
- ② 仕立てたい大きさより少し深い位置で刈り込みバサミや剪定バサミで刈込む。
- ③ 内側の枯れ枝やふところ枝を剪定し透かす。

※剪定する枝、透かし方については、(2)の「透かし剪定」参照

・強く飛び出した枝を先に切っておく。



#### ~ワンポイント~

刈り込みバサミを使った際、葉の途中で切れていると、切り口が変色して目立ちます。ひと手間かかりますが、次の葉の基まで剪定バサミで切り戻しておく、きれいに仕上がります。



・葉の基の小さな芽の上まで切り戻す



・葉の切り口が変色する

仕立てたいライン



刈り込みライン

(2) 透かし剪定

伸び過ぎた枝やバランスの悪い枝、混み合った枝等、不要な枝を切って、全体のサイズやボリュームを整えます。自然な樹形に仕上がるので多くの花木におすすめの剪定方法です。風通しが良くなるので、害虫の発生も抑制します。

① 樹形から伸びすぎている枝を剪定する。

・ --- のように樹形からはみ出した枝を  
 〃 で剪定する。



・剪定した枝に葉や芽が無いと枝が枯れてしまうので、残したい枝の場合、2、3枚は葉を残すよう注意する。

② 不要な枝(※)を剪定する。 ※下記「不要な枝とは」参照

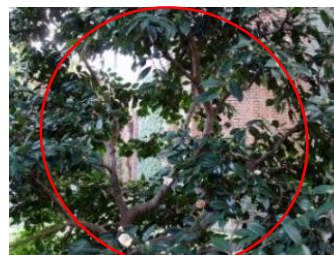
・例えば --- の2本の  
 ように上下で平行に伸び  
 ている枝はいずれ一方が  
 日陰になるので、弱い枝を  
 〃 で切る。



・日を守る枝がなくなり、残した枝がしっかり成長する。

③ 内部の枯れ枝や混み合った枝を剪定して透かす。 剪定する枝は下記「不要な枝とは」参照

【透かし剪定前】



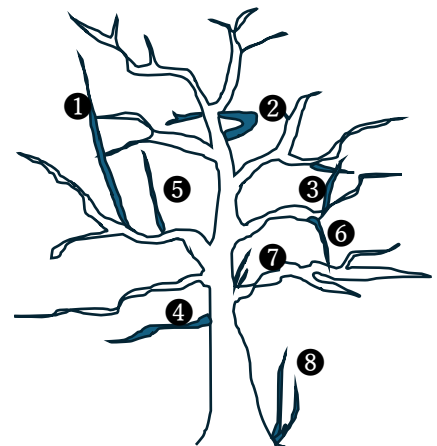
【透かし剪定後】

・向こう側が透けて見える程度に透かす。

【※不要な枝とは】

ツバキに限らず庭木共通で、次のような枝を剪定します。

- ①徒長枝（上に向かって周りより勢いよく伸びている枝）
- ②戻り枝・逆さ枝（曲がって幹側に戻っている枝）
- ③交差枝（お互い交差している枝）
- ④平行枝（他の枝と平行して生えている枝）
- ⑤立枝（枝から上に立ち上がり他の枝にあたりそうな枝）
- ⑥下がり枝（下に向かって生えている枝）
- ⑦ふところ枝（枝元から多数生えている弱い枝）
- ⑧ひこばえ（幹の根元から生えてきた枝）



3.剪定後の管理

肥料をまだ施していない場合は肥料を与えましょう。

ツバキやサザンカの仲間には風通しが悪いとチャドクガという害虫が発生しやすくなります。

5～8月の間に2度ほど発生するので、注意して葉を観察して卵のうちや、1枚の葉の裏に固まっている初期の頃に葉ごと切り取って処分します。チャドクガの抜けた毛に触れただけでもかぶれるので駆除するときは長袖を着るなど注意して作業しましょう。



チャドクガ

剪定というと少し難しく感じますが、まずは混み合った枝を風通し良く『透かす』事をイメージしてチャレンジしてみてください。

★次回4月は『スイセンの花後管理』をご紹介します。

※資料は個人でのご活用に留めていただけますよう、よろしくお願いいたします。